

Twitterなどで話題騒然！ 注目のドS作品が待望の単行本化!!

イラスト作品集『罵倒少女』(著・mebae)

8月10日 全国書店にて発売

株式会社KADOKAWA(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:松原真樹)アスキー・メディアワークスは、2016年8月10日(水)、mebae(めばえ)氏によるイラスト作品集『罵倒少女』を全国書店およびインターネット書店にて発売いたします。

『罵倒少女』は、アニメーター兼イラストレーターのmebae氏が2015年にTwitterに投稿した、美少女とドSなセリフを組み合わせたイラストが制作の発端となります。黒髪で制服姿の美少女が、鋭いまなざしと嫌悪感をあらわにした表情で[こちら]を罵倒するイラストは、独特の妖しさと色気を兼ね備えており、テーマに共感した多くのユーザーに大絶賛されました。mebae氏が公開する【罵倒少女】と名付けられた一連のイラストは、Twitter、PixivなどのSNSやネットで大きな話題となり、現在もそのテーマに共感したユーザーが、さまざまな【罵倒少女】のイラストを公開する、注目のコンテンツとなっています。

イラスト作品集『罵倒少女』は、これまでmebae氏が発表してきたすべての【罵倒少女】作品を収録した、“完全版”といえる内容です。mebae氏のサークル同人誌として販売された「罵倒少女#1」「罵倒少女#2」の再録・再構成のほか、複数の描き下ろし作品を掲載いたします。



↑ 『罵倒少女』イメージ

今回、本書に収録される「罵倒少女#1—素子—」は、主人公の男子高校生が、ある日突然、クラスメイトの少女・素子に罵倒されることから物語が始まるイラスト連作です。罵倒され続ける主人公、罵倒し続ける素子——奇妙な毎日が続けていくうち、2人の関係性も急速に変化していきます。コミックでもイラストノベルでもない、まったく新しい形のストーリー作品ながら、思わず引き込まれてしまう展開と、魅惑的な内容をお楽しみいただけます。

もう1編の「罵倒少女#2—明日香—」は、男子高校生の主人公と、後輩の【罵倒少女】明日香の物語です。明日香に告白される冒頭シーンから、主人公は数々の強烈な罵倒の言葉を浴びせられていきます。こちらはイラスト連作ではなく、mebae氏がアニメーション作品として公開している投稿動画を、フィルムコミック風に展開する構成となります。

さらに、カバーイラストも本書のための描き下ろしとなるなど、mebae氏の描く『罵倒少女』のすべてが堪能できる1冊です。

「8月10日=罵倒(バトウ)の日」に発売となる、コミックでもイラストノベルでもない、まったく新しい形のイラスト作品集『罵倒少女』にぜひご注目ください。

■ 『罵倒少女』 概要

- 【書名】罵倒少女（ばとうしょうじょ）
 【著者】mebae（めばえ）
 【編集】電撃マオウ編集部
 【仕様】A5判 【ページ数】148ページ
 【定価】本体920円＋税 【ISBN】978-4-04-892154-1
 【書店発売日】2016年8月10日（水）
 【発行】株式会社KADOKAWA
 【プロデュース】アスキー・メディアワークス

<あらすじ>

ある日突然、クラスメイトの素子に罵倒された主人公。その日を境に、2人は罵倒し罵倒される奇妙な関係が続けていく――。



↑ 『罵倒少女』表紙

<『罵倒少女』 イラストイメージ>



↑こちらが、mebae氏が「女の子に罵倒して欲しいので、自分で描きました。」というツイートとともに公開した最初のイラスト。フキダシのセリフと素子の表情で、多くの妄想がかき立てられる。



↑書籍では、片側のページに素子のイラスト、その対向ページに主人公のモノローグ（独白）を掲載して構成。素子の罵倒に対する主人公の純粋で率直な気持ち、赤裸々に吐露されていく（「罵倒少女#1—素子—」より）。



↑罵倒され罵倒するなかで、2人の関係性は急速に変化していく。読み進むうち、思わず主人公に感情移入してしまう（「罵倒少女#1—素子—」より）。



↑漫画のようにセリフがフキダシで展開されるアニメーション作品「罵倒少女#2」を、書籍ではフィルムコミック風に再現。明日香のドSっぷりが、さらに際立つ構成となっている（「罵倒少女#2—明日香—」より）。

■ mebae氏 プロフィール

mebae (めばえ)

北海道在住のアニメーター兼イラストレーター。

テレビ、劇場アニメーション、書籍、マンガのイラストなどを多数手がけ、現代美術家・村上隆率いるカイカイキキのアニメーションスタジオ、札幌ポンコタンの代表も務める。著作に『NONSCALE』（ワニマガジン社）。

■ アスキー・メディアワークスとは

アスキー・メディアワークスは、小説、コミック、ゲーム、ホビーなど、エンターテインメント分野を中心とした事業を展開。出版を基盤に、ウェブ・モバイル、電子書籍、アプリ、映像、音楽、グッズ、ゲーム、イベントなど、メディアを超えてコンテンツをプロデュースしています。

- KADOKAWA公式サイト : <http://www.kadokawa.co.jp/>
- アスキー・メディアワークス公式サイト : <http://asciimw.jp/>

以上

【本件に関する報道関係からのお問い合わせ先】
株式会社KADOKAWA
アスキー・メディアワークス
<http://asciimw.jp/>